

科目名	機械材料	英文表記	Engineering Materials	2013年2月12日			
科目コード	3104						
教員名:眞喜志隆 技術職員名:							作成
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
機械システム工学科	3年	必	履修	3単位	講義	通年	
科目目標	金属材料を中心とした機械材料の基本的な性質を理解し、機械材料に必要な諸特性を説明でき、必要に応じて材料に適した処理などを行うための基礎知識を習得させる						
総合評価	前期・後期評価:定期試験(前期中間と期末・後期中間と期末)の平均の80%+前後期各1回のレポート20% 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法		目標割合	
	①	機械材料の諸特性と利用法を説明できる	⇒	正しく説明できるか定期試験およびレポートで評価する。	40%		
	②	目標とする機械部品に適した材料を選択する方法を説明できる	⇒	正しく説明できるか定期試験およびレポートで評価する。	30%		
	③	材料に適した加工や熱処理を説明できる	⇒	正しく説明できるか定期試験およびレポートで評価する。	30%		
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
	◎		○				
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合							
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック
評価項目		80	0	20	0	100	
基礎的理解	①②③	40		10		50	
応用力(実践・専門・融合)	②③	20		10		30	
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0	
主体的・継続的学修意欲	①②③	20				20	
授業概要、方針、履修上の注意	①金属材料の性質を考える上で基礎となる状態図の基本概念・金属の強度を決定する②転位論の基礎について解説し、実用炭素鋼・非鉄金属材料の諸性質を学習する。 ③樹脂材料・セラミック材料の基本的な性質と機械工学分野での応用を学習する。 ④前期・後期に各1回の割合でPBLを取り入れた実験を行う。前期は金属の諸性質に関するテーマ、後期は実用機械材料に関するテーマを設定し、材料選択に関する基礎力を養成する。						
教科書・教材	・日本機械学会編 JSMEテキストシリーズ 機械材料学 ・講義用パワーポイント資料						

**授 業 計 画**

週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	原子の構造と結晶構造	4	代表的な結晶構造の種類と性質を学習する		
2	格子欠陥の種類と性質	4	結晶内に存在する講師血管の性質を学習する		
3	固溶体の種類と性質	4	合金の基礎になる固溶体の性質を学習する		
4	成分系の状態図	4	純物質の状態変化をもとに状態図の基礎を学習する		
5	成分系の状態図(全率固溶)	4	全率固溶体の合金とその状態図について学習する		
6	成分系の状態図(共晶型)	4	共晶型の合金とその状態図について学習する		
7	拡散現象概論	4	固体内での拡散について学習する		
8	前期中間試験と解説	4			
9	転位の種類と性質	4	転位の種類と性質を学習する		
10	転位の相互作用	4	転位の相互作用と機械的性質の変化を学習する		
11	金属の強化法(加工硬化・回	4	転位をもとにした金属の強化法に考え方を学習する		
12	金属の強化法(焼入れ・時効 処理)	4	PBL: 加工硬化・回復・再結晶について実験をおこない、塑性変形での材料の硬化と加熱による軟化を解説する	PBL	
13	熱処理の基礎と応用	4	熱処理の概論を学習する	PBL課題 の取りまと	
14	炭素鋼の製造・組織	4	鉄鋼材料の製造法の概論と成分・組織について学習する		
15	炭素鋼の種類と用途	4	実用炭素鋼の種類と性質について学習する		
期末	期末試験	[2]			
16	炭素鋼の熱処理	2	炭素鋼の熱処理方法について学習する		
17	炭素鋼の熱処理実験	2	炭素鋼の熱処理について実験を通して学習する		
18	合金元素の影響	2	合金を造る目的と合金元素の効果を学習する		
19	合金鋼の種類と用途	2	実用合金鋼の種類と性質を学習する		
20	ステンレス鋼の種類と性質	2	ステンレス鋼について、種類と性質について学習する		
21	鋳鉄の性質と用途	2	鋳鉄の種類と性質について学習する		
22	実用機械材料の特性実験	2	PBL: 各種の実用機械材料の特性を簡単な実験で求め、どのような使用分野があるのか理解する	PBL課題 の取りまと	
23	後期中間試験	2			
24	アルミニウム合金の種類	2	アルミニウム合金の種類と特徴について学習する		
25	アルミニウム合金の用途	2	アルミニウム合金の熱処理と用途について学習する		
26	銅合金の種類と用途	2	銅合金の種類と特徴について学習する		
27	新しい機械材料	2	複合材料などの新しい機械材料について学習する		
28	複合材料	2	複合材料の機能予測の原理について学習する		
29	樹脂材料の特徴1	2	機械材料としての樹脂材料の性質と用途を学習する		
30	セラミックス材料の特徴	2	セラミックス材料の一般的な性質について学習する		
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		90	実時間	67.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	課題発表(テーマに沿った課題について調べ、発表資料を作り発表する、前後期1回)			各4時間×2回	
<b>備考欄</b>					